

1 件名

令和7年度タウンミーティング（滝沢ふるさと交流館）（顛末書）

2 日時

令和7年10月13日（月・祝）10時00分～11時40分

3 場所

滝沢ふるさと交流館 学習室

4 参加者

男性5名 女性3名 計8名

5 市出席者

滝沢市長 武田哲、副市長 岡田洋一、企画総務部長 熊谷和久  
事務局 企画政策課 木下 智恵子、福井 聡、角掛 遥  
計6名

6 内容

（1）開会

（2）あいさつ 滝沢市長

（3）タウンミーティング

・第1部 重点事業の取り組み、トピック説明

「令和7年度市政運営の概要について」市長から説明（～10時30分）

・第2部 テーマについて皆様とフリートーク

出席者から感想を含め発言を求めた。詳細は別添のとおり。（～11時40分）

（4）閉会

7 第2部のフリートーク内容

（市民）

以前も市長と話そう等の場で依頼していたが、県道16号線の交差点の整備の件について、国土交通省等との検討がどの程度まで進んでいるのか。

⇒（市長）

今年度、県と設計のあり方について交渉をし、四つの設計案をいただいた。県からは、財政的にもなかなか厳しいという話もあり、どういった形がよいか検討しているところである。全体的に見通しがよくなるように等、現在検討しているところである。今後は用地交渉、あるいは細部の設計に移っていくと思っている。まずは、県の動きをしっかりと後押ししながら進めていきたい。滝沢市内で一番渋滞する道路であるので、渋滞解消を図っていければと考えている。

⇒（市民）

この交差点は変形的なので、中学校の方から来る道路から右に曲がりたくても、前にトラックが入るともう車が見えない。場所を変更するのは大変だと思うが、時差式信号があれば少しは緩和されるんじゃないかと思う。現在、盛岡大学附属高校付近で道路工事を行っているが、だんだんと滝沢の道路も広くなり、交通量が更に多くなると考えられ、この交差点が非常にネックになってくるのではと思っている。

⇒（市長）

まずは見通しの悪さと、四方向からの交通について、右折レーンを設けながら少しでも長く広く取れる形を考えている。しかし、県からの工事の予算額で、低い額から高い額を比較すると、3倍ほど額が異なる。その中で、最小の経費で最大の効果が見込めるよう、考えていきたい。ただ、岩手県内の車の交通量は人口減少とともに大きく減っていく予測が出ている。今後、20～30年以内で、3割ほど全体の交通量が減っていくという予測もある。しかし、この道路は物流の車なども通り、厨川方面からの線形も変わることで、そこまで減少しないのではという予測もあるため、まずは皆様が安心して運転できるような環境を今後とも考えていきたいと思っている。

（市民）

現在、下水道について様々困っている地区もある。資料2ページにおいて、予算額が17億円となっているが、どのように振り分けられ、決定したのか伺いたい。

⇒（副市長）

市街化区域内のところは公共下水道を使っている。合併浄化槽を使用している世帯もある。その中で、先ほど市長が申した下水道使用料の見直しに関しては、現在抱えている課題が、老朽化がまず1つ。そして皆様が節水いただいていることもあり、水の使用量が減ってきている。これはもちろん良いことなのだが、それに伴い上水道の料金収入も減ってきている。また、下水道の使用量も減ってきているということもあり、その中で、皆様の生活をいかに維持していくかというところに取り組んでいく所存である。この課題に対し、上下水道事業経営審議会に今後の下水道の使用料のあり方ということで、市長が諮問を行うところである。今後審議いただき、審議会から市へどういった形で徴収すべきではないかと答申をいただきながら、使用料に関して検討していく段階である。合併浄化槽について、市街化区域外の皆様に関しては、合併浄化槽を設置する際に、何人槽とといった大きさに応じた金額で、補助をしている。希望者が多いときもあったが、今般の物価高騰の影響などで、現在、補助金としては希望者に相応な予算措置になっていると思われる。合併浄化槽の場合は浄化した水を放流する水路や側溝も必要になるため、近隣の方で、浄化槽などを希望している方がいらっしゃる際は、市へお問い合わせいただければと思う。

⇒（市長）

使用料については、急に上げるのではなく、必要な金額を少しずつ上げていく形にしていきたいと思っている。様々な物の値段が上がっているため、そこの部分は考えていきたいと思っている。また、汲み取り料金が大きく上がったため、滝沢市と雫石町で、助成しながら対応しているところである。盛岡市では、都市計画税という税を徴収している。60～70坪の家で1か月あたり1万円ほどであったと記憶している。盛岡市では都市計画

税を徴収しながら、道路や上下水道の工事へ充てているのではと思っている。滝沢市では市民の皆様の負担を少しでも減らしながら、進めていきたいと考えている。

⇒（市民）

浄化槽について、水洗になるには相当時間かかるようだが、浄化槽にする場合、市からの補助は人数によると思うが、どれぐらい出るのか。

⇒（副市長）

5人槽で、既存の住宅は48万円、新築は39万円。7人槽で、既存の住宅は59万円、新築は47万円。10人槽で、既存の住宅は82万円、新築は66万円である。

⇒（市民）

例えば、3人、5人槽にするとして、数百万円かかる工事に対してその補助額という認識でよいか。

⇒（副市長）

お見込みのとおりである。物価高騰で皆様も生活に様々な影響が出ているが、行政も、例年と同様のことを同じように行ったとしても、予算を要する状態である。下水道の改修工事もそのギャップがあり、工事費全体が数百万円かかるものに対しての補助という形になっている。

（市民）

住宅を新設する場合、だいたいは浄化槽を作る。私どもが滝沢に来たときにはそれがなく、自分の家の前に、近隣住民で資金を出し合い、下水を作った。その後新しく家を建てた人が、浄化槽にしてみたものの、排水する場所がなく、私どもの方に「引っ張ってやってくれませんか」ということで、引っ張った。しかし、3軒も4軒も、当初の住民たちが何百万も出して作ったものに、新しく家を建てた人たちの浄化槽の水がきて、流してやっている。いずれ、老朽化し壊れてしまった際、市から何か補助があるのだろうか。

⇒（副市長）

お気持ちとしては理解できるが、補助はないのが現状である。浄化槽をつける際には放流先がないと設置できない。地下浸透のマスを設置してはどうかなど、今の環境の中で、いかに地域をクリーンにしていくかということを考えると、やはり放流先は必要である。例えば、道路であれば、市道で、皆様から整備希望があれば、それぞれ負担いただきながら市が補助するという補助制度もあるが、排水に関してはない状況である。

（市民）

小学生と幼児の子供を育てており、5つの重要な視点の中で、こどもまんなか滝沢とまなぶ滝沢が一番興味を持っている。今、日本では不登校の子供が増えてきており、30万人を突破し、34、5万人に迫る勢いかもしれないのだが、滝沢市の現状はいかがか。

⇒（市長）

滝沢市では、教員をはじめ支援員など様々な関係者と一緒に取り組んでおり、それぞれの子供たちに対応し、岩手県内の中でも不登校の出現率は低くなっている。また、不登校の子供たちに対しては、市役所分庁舎にて「フレンド滝沢」という学校外の子供たちの教室に通っていただくなどしている。今般では、元校長先生などに当該教室に関わっていただき、学びの環境づくりをしている。また、行政だけではなく民間の取り組みなどもあり、そのようなところも活用しながら不登校の子供たちに対応している。まずは子供たちの心

の変化に、多くの大人が関わり、気づく環境をつくっていきたい。例えば、すずのねサポートスタッフが学校活動全般のお手伝いをすることによって、先生が子供と向き合う時間を増やしたり、岩手県立大学や盛岡大学の大学生に、ラーニング・サポーターという形で学校に入らせていただいている。そのような環境をつくっていくことによって、様々な大人が子供たちの変化にすぐ対応できるようにしているところである。そして、一番嬉しいのはスクールガードの皆様が気付いてくれるという点である。「挨拶をしなくなった」「声が小さくなった」という子供たちの変化を連絡いただいたりして、学校と情報共有しながら対応している。このように、不登校の子供たちを減らしていける環境をつくっていければと考えている。

⇒（副市長）

全体的に、コロナ以降は不登校の子供たちが増えた傾向はある。しかし市長も申し上げたとおり、市とすると増え続けてないという状況でいるとは思っている。

⇒（市民）

不登校について、一くくりにしているが、子供が10人いたら10人違う。だから校長先生も十分な対応ができない。色々な人を集めて取り組まないといけないと思う。1人1人同じではなく子供によって様々な事情がある。

⇒（市長）

その部分をしっかり情報共有しながら各先生方が、それぞれにあった形で対応している。スクールカウンセラーの方々も入らせていただいているので、もしものときはそういった先生方にしっかりと相談し、そして家庭の方々とも情報共有しながら、1人1人に合った対応をしている。

⇒（市民）

市長がおっしゃったようにたくさんの大人と関わりながら対応していくことが大切だと思っている。不登校の子供たちは、自己肯定感が低かったり、様々な悩みも抱えていると思うが、背景には、今の教育が合っていないのではとも思っている。十人十色の個性がある中で、一律の教育を、明治維新、戦後ですずっと続いてきている。150年続いている教育システムなのだが、コロナも経て、今が過渡期なのではと感じている。文部科学省も学習指導要領ですごく大きく舵を取っていつているが、2020年から探求学習というものにシフトしていつてるようである。知識の学力も必要だと思うが、子供たちの主体的な「学びたい」ことをスタートにしていくということが大事だと思っている。例えば渋谷区では「シブヤ未来科」というものを作り、総合学習を取り入れるなどしている。滝沢市ではどうか。

⇒（市長）

子供たちの探求心をどう育てていくかということだが、現在、子供たちに1台ずつタブレット端末の環境を整備している。タブレットを使って自分の調べたいことを調べている子供たちはすごく多い。全国学力テストも、徐々にタブレットで回答する形になっていくと聞いている。子供たちは吸収が早い。タブレットを使いながら、それぞれが知りたいことに対応できる環境になっていると感じている。また、総合的学習は、各学校でそれぞれ取り組んでいる。中学生は、市内生産者のところで様々な体験をしたり、小学5年生は各学校で田植えをし、収穫までを行っていると感じている。滝沢市の魅力

や、そこで働く人たちの人物像などを生かしながら、子供たちの学習意欲や探求心を伸ばしていけたらと思っている。探究心は、ここまで調べることができたという達成感のもとにあると思っている。先日、夏休みの自由研究や工作等を展示した「ノーベルのたまご展」がふるさと交流館にて開催された。その中で、「スイカの種が何個あるんだろう」とスイカを1個、丸ごとみんなで2日間にわたって食べ、数えていた子供たちの展示が興味深かった。子供たちは、それぞれの学年に合った形でいろんなことを考えている姿に感心させられた。そういったところで、子供たちが知りたいことを大人が応えていくことが一番大事なのではないかと考える。親子の間でも、その時間を作っていたきたいと思っている。

⇒（市民）

仰るとおり、大人と沢山関わっていくことが大事だと思う。市としても、コミュニケーションを沢山とれるように取り組んでいただきたい。また、タブレット端末について、世界的に最初に教育に取り込んだスウェーデンが、紙の教科書に戻したというニュースをみた。ITは便利だが、弊害もある。また、紙の良さもある。タブレットだけを活用し1人で勉強するよりは、多くの地域の人と関わるような教育の方向性を望んでいる。タブレットのメリットデメリットを整理し推進していただきたい。

⇒（市長）

3歳児健診の目の屈折検査で、携帯ゲームばかりやっていると寄り目になったりすること。早期に発見し、タブレットやスマートフォンと距離を置くことを促したり、子供たちの変化に対応できるようにしていきたい。また、本の読み聞かせを各家庭でやっていただきたいと思っている。各学校の図書館も充実している。できたばかりの中央小学校も、徐々に本を増やしている。蔵書率はある程度確保できていると思っている。自分の手で紙を捲り、触れ合う時間も作っていきたい。併せて、各学校に司書教諭も配置している。図書館がいつも同じ風景ではない。学校に行ってみると、季節の花や食べ物の装飾をしてある。本の修理など様々な方が運営に協力してくださっている。学校の運営にも興味をもっていただければと思う。第2次総合計画策定の際に、ミクニ工業へ伺った際、女性従業員の方が「子育ては本当に大変だったが、悩んだときに地域の人たちが相談役になってくれた。今は仕事が忙しくて大変だけれども、将来、必ずお返ししたいと思っている。その気持ちでいま仕事をしている」と話していたことが印象的であった。地域で様々な方々と関わり合いを持ちながら、子供たちを育てていける環境づくりをしていきたい。

（市民）

自分も中学生と小学生の子供がいる。資料のこどもまんなか滝沢で、「子供の放課後の居場所づくり」があるが、子供と地域の大人とのかかわりが大切だと思う。盛岡市は児童センターがある。箱モノを新たに作るのは難しいと思うが、公民館などを使って地域の元気なシニアの方々のパワーを借りて子供の放課後の居場所を作っていければいいのではと思っている。子供にとっても、親にとっても、シニアの方々にとってもよいことなのではと考える。

⇒（市長）

5歳児健診で、「けんけんぱ」ができない子供たちがいて驚いた。今の親御さんも、道路や公園で遊ぶ機会も少ないと思う。地域のお年寄りの皆様と昔遊びの機会があれば、けん

けんばができるようになっていくのかなと思う。現代の子供たちは、小さいころからゲーム機などで遊んでいるが、外遊びの機会を増やしていけるような環境を増やしていければと思っている。

⇒（副市長）

「放課後子ども教室」を岩手県立大学等と連携し行っているが、仰ったとおり児童館のように既存の施設を使いながら、地域の皆様と、学校が終わってから家に帰るまで見守り、安全に帰宅するという居場所をどのように増やしていくかは要検討である。学校施設を使うのか、集会施設を使うのか、ニーズはあるので、検討していく。スクールガードの皆様も、毎朝、子供たちに会うのが生きがいとお聞きしている。お互いに良いことだと感じている。

⇒（市民）

学童はあるが、費用が高く、「学童に入れるために働かざるを得ない」となってしまう家庭もある。放課後に預ける場所がなく、子供どうして遊んでいて、親の許可なく別の子の家に上がり込んで迷惑をかけたという話も聞くので、そういったことを解消していければと思っている。

（市民）

当自治会では、スクールガードは、高齢者中心に頑張ってもらっている、手当もなかったが、防寒着くらいはあってもいいのかなと思っている。自治会活動について、1人暮らしや高齢者2人暮らしの世帯が増えているため、学校の父母会なども巻き込んで取り組んでいきたい。いきいきサロンや健康教室など市から来ていただいているが、参加率が低く、これをどのように高めるかが課題である。また、広報紙について、世帯に届いても数カ月経つと、捨てざるを得ない。コミュニティセンターなどに、広報紙を閉じるファイルなどを用意いただいて、バックナンバーが見れるようにしてはどうか。また、頻繁に年金にかかる情報が掲載されていて、周りにもPRしている。付加年金など、知らない人も多いので、今後とも掲載していただきたい。

⇒（市長）

広報を見る人が減ってきているので、どのように増やしていけるか様々取り組んでいるところである。

⇒（魅力発信室）

広報を読んでもいただき感謝する。年金の記事は担当である保険年金課が執筆しており、情報の発信を頑張っている証拠かなと思っている。当室だけでなく、お褒めの言葉をいただいたということで、お知らせし、今後とも全庁をあげて市の広報に取り組んでいきたい。コミュニティ施設におけるアーカイブについては、地域づくり推進課とも相談し、検討したい。

⇒（市長）

いきいきサロンなどの参加率について、各コミュニティセンターのエアコン設置に取り組んでいる。夏場があまりにも暑いことも参加率が上がらないことの一因と思われる。国の補助も見据え、検討している。集まりやすい環境づくりにも取り組んでいきたい。

（市民）

つながる滝沢について、自治会内で行事をやっても、全世帯900世帯あるが、1子供

会10人ほどしか集まらず、参加率が低い。総会をやっても30人ほどしか集まらず、役員も70代が一番若い現状である。このままでは消滅の一途をたどるのではと思っている。また、市外の放課後デイサービスにてアルバイトで働いている。そこで、障がいを持った子供を育てる親は大変だと感じている。滝沢市の放課後デイも満員状態のようだ。障がいを持つ子供たちやその家庭への支援等はどのようなものがあるのか。

⇒（市長）

自治会役員となり手不足について、定年延長が一つの要因と感じている。住民自治日本一を目指しているが、暮らしやすさ、人と人とのかかわりが日々感じられる滝沢にしていきたい。なり手不足について、輪番制度などに取り組んでいる自治会もある。市職員も地域に入っていきように話しており、様々相談を受けながら一緒になって取り組んでいきたい。また、障がいを持ったお子さんが社会の中で断絶されることがあってはならないと思っている。11月着工するが、滝沢総合公園で、障がいを持った方々が遊べる遊具を作る予定である。障がいを持つ子もそうでない子も、お互いをいたわって遊べるよう、閉じこもるのではなく、外に出て、社会の中でそれぞれのお子さんを守っていくという地域にしていきたい。支援策については、お子さんを支援学校まで送る移動支援や、医療費助成の所得制限撤廃などを行った。切れ目なく対応していきたいと思う。

（市民）

市の事業について知るため参加した。様々情報頂きありがたい。今までは仕事をしていて自治会活動にも参加していたが様々迷惑をかけた。来年からどのように暮らしていくか考えているところである。

⇒（市長）

様々な方々が自治会活動に興味を持っていただけるというのは、自治会の皆様の努力の成果だと思う。シルバー人材センターや、睦大学、最近では健康マージャンなど様々な教室もある。元気なうちは、地域に出て様々活動いただいたり、生涯現役で挑戦いただける環境づくりをしていきたいと思っている。

【当日の写真】

・ 第 1 部



・ 第 2 部

